

甲子園16強、知事に報告

佐野日大、声援に感謝



福田知事(左)に結果を報告する佐野日大の中村主将(左から2番目)、吉澤副主将(同3番目)、鈴木投手(同4番目)＝県庁

今夏の第108回全国高校野球選手権大会で16強入りした佐野日大の選手たちが9日、県庁を訪れ、福田知事に甲子園での戦いを報告した。

16年ぶり7度目の出場を果たした本県代表の佐野日大は1回戦で聖隷クリストファー(静岡)、2回戦で神村学園(鹿児島)を下して16強に進出した。8強入りを懸けた3回戦では準優

勝した健大高崎(群馬)に1―4で逆転負けしたが、投手を中心に粘り強く戦う持ち味を甲子園でも存分に発揮した。

県庁では長谷川弘理事長や高原健治校長、麦倉洋一監督のほか、中村盛汰主将、吉澤悠副主将、鈴木有投手らが福田知事と歓談し、大会の思い出を振り返った。
中村主将は「校歌を2度

歌うことができたのは、栃木県をはじめたくさんの方々に声援をいただいたおかげ」と感謝した。福田知事は「さまざまな苦難を乗り越えての活躍に心から敬意を表したい。応援した人

たちは誰もが胸を熱くした」とねぎらいの言葉をかけた。
その後一行は下野新聞社も訪問し、高山知昭編集局長らに結果を報告した。
(内藤大地)

たロガ融レカ、ン